

## 2020年度モンゴル活動報告

期 間：2020年7月8日～2021年2月26日

場 所：モンゴル

参加者：小久保 謙一(国際委員会)、松原 弘和(国際委員会)、徳田 勝哉(国際委員会)、古平 聡(北里大学医療衛生学部)

昨年度までに収集した現地の水質検査データの結果から、モンゴルはエンドトキシン値・生菌数ともに低値であったことから、ガイドラインの整備および透析医療従事者に対する教育をすることにより、日本と同様の透析液水質基準を達成できる可能性があると考えられた。

本年度はその活動を加速すべく厚生労働省 2020年度医療技術等国際展開推進事業に、「モンゴルにおける血液透析および水質管理の技術研修および水質の実態調査と水質管理ガイドライン作成支援」という活動内容で申請した。ヒヤリングでは、活動実績、活動計画などを説明し、採択していただくことができた。さまざまな活動を計画していたが、世界的な新型コロナウイルス感染症蔓延により日本-モンゴルの往来が不可能となってしまったことから、現地での活動を実施することはできなかったが、その代替として、オンラインを用いて、打合せやセミナーを行った。

まず、2020年7月から8月の間に、モンゴル版透析液水質管理ガイドラインの策定会議メンバーを決定した。2020年10月に第1回ガイドライン策定会議を Zoomで行った。その後も、Zoom やメールを用いて会議をなんどか行い、我々もオブザーバとして参加した。現在、モンゴル側で水質基準やガイドラインのドラフト作成に着手している。

2月には、第4回のジョイントセミナーを、Zoomを用いて実施した。透析液清浄化についての講演、感染管理や対策について、病院の設備の面からと患者と医療従事者の面の講演を2日間に分けて、実施した。参加者は50名程度と現地で実施したよりは少なくなっていたが、以前は参加しにくかった地方からの参加者もあったとのことで、オンラインでのセミナーの新しい可能性を感じたセミナーとなった。

